M-AUDIO

Studiophile™ CX5

日本語

ユーザーガイド

日本語

1. はじめに

M-Audio CX5バイアンプ･スタジオ･モニターをお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。CXシリーズのモニターは、高性能で評判の高いM-Audioのスタジオ･モニターに基づいて設計されたラウド･スピーカーで、歪みや音色の変化を起こすことなく正確で高品位なオーディオ再生を提供します。録音ソースからのサウンドを余すことなくモニターすることができるのでミックスはより優れた仕上がりになります。

レコーディングやミキシングの経験が豊富であっても、CXシリーズのモニターをご使用の前にユーザーガイドをよくお読み下さい。CXシリーズのモニターの設定方法やその他の役に立つ情報等を充分にご理解の上、本製品を最大限にご活用下さい。

2. 製品パッケージ内容

CX5またはCX8の製品パッケージには以下の製品が含まれています:

- CX5スタジオ･モニター　1ペア（左右各1台）
- IEC電源ケーブル　2本
- 周波数特性表（スピーカーごと）別紙
- 本ユーザーガイド

日本語

3. CXシリーズ･スタジオ･モニターについて

一般的に大量生産されているラウド･スピーカーは心地の良い音を得ることができますが、これは低音域と高音域の周波数帯域を人工的に強調する不均一でノンリニアの周波数特性を意図的に導入するようデザインされているためです。このタイプのスピーカーでは、完成した楽曲を楽しんで聴く目的には向きますが、ミックスに問題があってもその箇所を「緩和」してしまうため修正すべき箇所の全てが再現されるわけではなく、実際のミキシングに使用する目的にはお勧めできません。

M-AudioのCXシリーズ、バイアンプ型スタジオ･モニターは、一般的な大量生産品のラウド･スピーカーとは異なり、歪みや音色の変化を起こすことなく、正確で精度が高く、信頼性に優れた再生を実現するようデザインされており、内部でCXモニターのドライバ、内部電子機器（アンプリファイヤ、クロスオーバー等）とエンクロージャーの全てが連携して、正確な低音、滑らかな高周波過渡応答、高度なリニア周波数特性をスピーカーの可聴域全てから提供する厳重な統合システムを搭載しています。これにより録音されたトラックの優れた部分も悪い部分も全てをモニターすることができるため、問題の箇所を見つけて修正し、最終的には他のスピーカーやオーディオ･システムでも適切に再現できる優れたミックスを制作することができます。

スタジオ内でのCXモニターの配置や方向は重要で、正しく配置すれば音のイメージングや透明度、全体の性能が改良されます。詳しくは本ユーザーガイドの「CXモニターを設定する」のセクションを参照して下さい。

また、CXモニターには特定のスタジオ環境にスピーカーをマッチさせるのに役立つ複数のスイッチが装備されていることを覚えておいて下さい。これらのスイッチがデフォルトの状態であれば、CXモニターは製品に同梱されている別紙、各スピーカー用の周波数特性表に記載された通りの周波数特性を示します。これらは無響室での測定結果であり、音響が入念にチューニングされているレコーディング・スタジオに類似する「理想的な」環境でのスピーカーの性能を示します。ところが現実的には、特定のスタジオ（またスタジオ内でのスピーカーの配置）での音響効果により、モニターの低音域、中音域、高音域等が小さ過ぎる（または大き過ぎる）結果を示すことがあります。これを補うために、リア・パネルのスイッチを使用して、スピーカーの周波数特性をその特定のスタジオに合わせるように設定します。これらのスイッチについては「リア・パネルのEQコンツアー・スイッチについて」のセクションを参照して下さい。

***無響室について:**

無響室とは床、天井、全ての壁が吸音素材の防音ウエッジ（くさび型）で覆われている部屋で、ウエッジは室内で生成されたサウンドの反響やラウド・スピーカーの音響測定への影響を回避するものです。

無響室は、部屋自体が室内に含まれる任意の音のソースへいかなる種類のサウンドも伝達することがないため、音響的に「ニュートラル」な空間であると考えられています。このためラウドスピーカー（CXモニターを含む）は、通常、無響室のような部屋で分析/チューニングされます。

重要なのは細部:

スピーカーのキャビネットの形状や素材がスピーカーのサウンド全体に大きな影響を及ぼすことをご存知ですか?

CXモニターに装備された分厚いMDFや慎重に配置された内部の補強材により、低音域でスピーカーが共鳴するのを防ぎます。つまり、スピーカーのキャビネット自体がミックスの中の低周波のサウンド（キックドラムやベース等）に合わせて鳴り響くことはありません。これでより正確な低音のレスポンスが実現します。

更に、丸みを付けたエッジやツイーターの輪郭に沿ったウエーブガイドは、単にスピーカーの外観を美しく見せるための表面的な飾りではなく、室内に高周波を平均に行き渡らせ、左右2台のスピーカー間の「スイートスポット」を広げるのに役立つものです。

4. CXモニターの特徴と技術仕様

CX5
ウーファー5 1/4インチ、ボイスコイル1 1/2インチ
ウエーブガイド搭載のシルクドーム･ツイーター、1 1/4インチのボイスコイル装備
バイアンプ型クラスA/Bアンプリファイヤ
ウーファー50W
ツイーター40W
周波数特性:50Hz to 30kHz (+/- 3dB)
XLR、1/4インチTRS、RCA入力端子装備
防磁型でCRT(チューブベース)モニターやテレビの近くに配置可能
リア･パネルのコンツアー･スイッチによりスタジオに合わせた設定可能
頑丈で音響的に優れている1インチのMDFバッフルがフロント/リア･パネルに装備されキャビネットの共鳴を阻止
リア･パネルに装備されたフレア状のファイアリング･ポートによりシステムのヘッドルームが認識可能なほどに増加
キャビネットによる音色の変化を最小化する最適化された内部補強
キャビネットの丸みを帯びたエッジと音響ウエーブガイドにより高周波の拡散を平均化
スピーカー保護: • 出力電流制限 • 加熱保護 • 電源オン/オフ過渡保護によりスピーカーのポップノイズを回避 • サブソニック･フィルタ • 外部メイン･ヒューズ

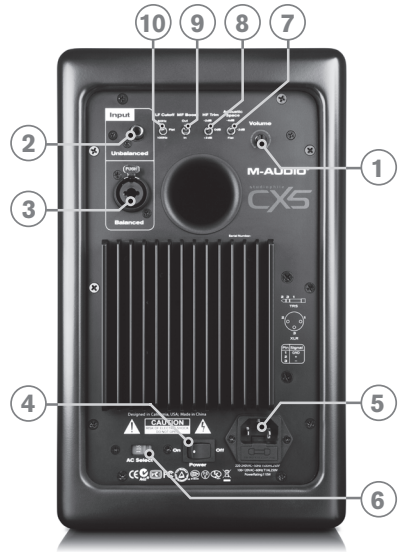
日本語

5. ハードウエアのコントローラとインジケータ

リア・パネル

① **入力ゲイン・ノブ:**このノブは、XLR/TRS(2)入力とRCA(3)入力のゲイン・レベルを調節します。ノブを一番左まで回した状態ではゲインは最小になり、ノブを一番右まで回すとゲインが最大レベルになります。

② **XLR/TRS入力端子:**このコンボ入力端子には、XLR端子と1/4TRSタイプの端子のどちらかを接続することができます。オーディオ・インターフェイス、ミキサー等のライン・レベルのオーディオ・ソースを接続します。

③ **RCA入力端子:**この端子は、アンバランスRCAタイプの出力端子を装備するオーディオ・ソースからライン・レベルのシグナルを受信します。

▶ *XLR/TRS入力とRCA入力はCXモニターのアンプリファイヤに送信される前にミックスし、同時に2つのサウンド・ソースを出力することができます。但し、両方の端子で同時にオーディオを入力しないよう注意して下さい。入力端子に負担がかかり過ぎて入力シグナルにクリッピング(ディストーション)が発生する恐れがあります。*

④ **電源スイッチ:**CXモニターの電源のオン/オフを切り替えます。

⑤ **電源ケーブル端子:**標準的なIECタイプの電源ケーブルを接続します。

⑥ **入力電圧セレクタ:**このスイッチは、埋め込み式で100-120Vまたは220-240Vのいずれかの電圧を選択することができ、世界中どこでも使用することができます。スピーカーの損傷を防ぐために、ご使用になる地域の電圧に合う電圧を選択して下さい。

__ヒント:__アメリカ合衆国、日本、南アメリカの多くの地域では一般家庭用の電圧が100Vから120Vで、ヨーロッパやアフリカ、アジアのほとんどの地域で220Vから240Vの電圧が供給されています。ご使用になる地域の電圧が不明であれば、CXモニターを接続したり電源をオンにする前に、まずコンセントの規格を確認してから入力電圧セレクタを適切に設定して下さい。

⑦　**アコースティック・スペース・スイッチ:**このスイッチを使用して、ご使用になるスタジオに低周波のレスポンスが合うように「シェルフ」EQを設定します。「リア・パネルのEQコンツアー・スイッチについて」のセクションを参照して下さい。

⑧　**HFトリム・スイッチ:**このスイッチを使用して、ご使用になるスタジオに合うようスピーカーの高周波のレスポンスを設定します。「リア・パネルのEQコンツアー・スイッチについて」のセクションを参照して下さい。

⑨　**MFブースト・スイッチ:**このスイッチを使用して、ご使用になるスタジオに合うようスピーカーの中域の周波数のレスポンスを設定します。「リア・パネルのEQコンツアー・スイッチについて」のセクションを参照して下さい。

⑩　**LFカットオフ・スイッチ:**このスイッチは、CXモニターの低周波のカットオフ周波数を設定します。「リア・パネルのEQコンツアー・スイッチについて」のセクションを参照して下さい。

フロント・パネル

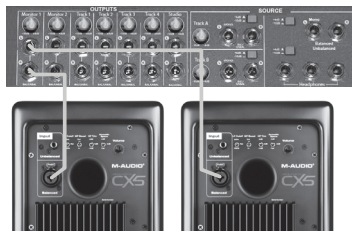
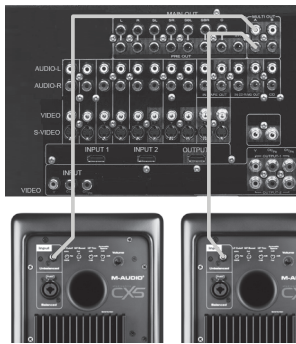
⑪　電源LED:この青色LEDは、モニターに電源が供給されリア・パネルの電源スイッチ（4）が「ON」に設定されている時に点灯します。

日本語

6. 接続図

CXモニターのリア·パネルには、バランスXLR/TRSコンボ端子とアンバランスRCAタイプのアナログ入力端子が装備されています。ミキサー、オーディオ·インターフェイス等のライン·レベルの機器を接続します。

オーディオ·インターフェイス
（バランス**TRS-**バランス**TRS**）

ミキサー
（バランス**XLR-** バランス**TRS**）

コントロール·ルーム·ルーター
（バランス**TRS –** バランス**XLR**）

プリアンプリファイヤ·プロセッサ
（アンバランス**RCA –** アンバランス**RCA**）

▶ *XLR/TRS入力とRCA入力はCXモニターのアンプリファイヤに送信される前にミックスし、同時に2つのサウンド·ソースを出力することができます。但し、両方の端子で同時にオーディオを入力しないよう注意して下さい。入力端子に負担がかかり過ぎて入力シグナルにクリッピング（ディストーション）が発生する恐れがあります。*

ヒント:*ミキサー、オーディオ·インターフェイス等のオーディオ·ソースにXLR/TRS出力端子とRCAタイプの出力端子が装備されている場合、できる限りRCA端子ではなくXLRまたはTRS端子を使用して下さい。XLRとTRSケーブルは「バランス」接続できるように設計されており、プラス（ホット）、マイナス（コールド）、アース（グラウンド）の3つの導線を使用するのに対し、RCAケーブルではプラス（ホット）、マイナス（コールド）の2つの導線でシグナルを伝達します。3つの導線を使用することによりノイズを軽減しRF干渉を大幅に減少させ、全体の信頼性が向上します。XLR/TRS端子が使用できない場合はRCAケーブルを使用しますが、この場合ケーブルの長さをできるだけ短くするよう注意して下さい。*

7. CXモニターを設定する

スタジオにおけるCXモニターの設定と配置方法によってスピーカーの性能を大きく左右します。CXモニターの性能を最大限に利用できるよう、以下の方法に従い設定して下さい。

ヒント:可能であれば、CXモニターは机の上でなくスピーカー・スタンドに設置します。机は低周波で共鳴する傾向があるため、CXモニターの低音のレスポンスに悪影響を及ぼす可能性があります。スペースの関係上、スピーカー・スタンドを使用しないために低音が増強気味に聴こえる場合は、モニターを「スピーカー・パッド」の上に設置することで机からCXモニターを音響的に分離することをできる場合があります。

スピーカーの配置

基本的に左右のCXモニターとリスナーが逆三角形を描くように配置します。右の図を参照して下さい。スピーカーの正面を少しだけ内側に向けてウーファーとツイーターがリスナーの方を向くように角度を付けます。

通常、CSモニターは一番近くにある壁、天井、その他の大きい平面から30センチ以上離れた場所に配置します(理由は次章で説明します)。スタジオのスペースの関係等で、実際にこの距離を取るのが無理なほどの狭いスペースであれば、CXモニターに装備されているアコースティック·スペース·スイッチ(7)を使用すれば壁や部屋の角の近くに配置することもできます。このスイッチの使用方法については、次章を参考にして下さい。

スピーカーの高さ

スピーカーは水平に、ウーファーとツイーターの中間がリスナーの耳の位置になるように左右のスピーカーを配置します。

スピーカーの位置

CXモニターは立てて配置して下さい。横向きに配置することはお勧めできません。CXモニターのウーファーとツイーターは縦に配置された時、最大の性能を発揮します。横向きに配置すると、スピーカーの近くにある平面からの反響が強くなり、スペクトル的にアンバランスなサウンドになります。

スペースや視野の関係でCXモニターをどうしても横向きに配置せざるを得ない場合、下図のようにツイーターが両方のスピーカーの内側に来るように配置するとイメージングが改良します。

日本語

リア・パネルのEQコンツアー・スイッチについて

リア・パネルに装備されたEQコンツアー・スイッチは、CXモニターを使用するスタジオの周波数レスポンスを補足するようEQカーブをカスタマイズすることができます。

スタジオ・モニター(CXシリーズを含む)の周波数特性はフラットなのに、どうしてEQスイッチが装備されているのか疑問に思われるかもしれませんが、以下にその理由を3つ説明します:

1.特定のスタジオのサイズ、形状、音響処理:

CXモニターは、無響室でできるだけリニア(フラット)な周波数レスポンスを得られるようテストされチューニングされています。つまりこれらのEQスイッチがデフォルトに設定されていると、一流のレコーディング・スタジオのような「理想的」な環境において、別紙、周波数特性表に記載されている通り、モニタリング時の周波数レスポンスが得られます。一流のスタジオではコントロール・ルームのサイズや形状、スタジオ・モニターや大きな家具類の配置、壁や天井に使われている建材、スタジオの様々な部分に施されている音響処理は音響の専門家により判断されます。これによりスタジオ・モニターは「ミキシング・ポジション」で、確実にできるだけフラットで正確なサウンドになります。

現実には、プロジェクト・スタジオやホーム・スタジオのほとんどは既にある部屋にセットアップするために部屋のサイズや形状等、音響を改良する目的で簡単に工事することはできません。部屋自体のデザインがスタジオ・モニターの周波数レスポンスに悪影響を与えることもあります(部屋の中の平面でサウンドが反響するため、スタジオ・モニターはリニアなサウンドにならない等)。このため、CXモニターは部屋の性質に起因する悪影響を補正するためのEQスイッチが装備されています。

2. スタジオ内でCXモニターの配置:

CXモニターから壁(床や天井も)までの距離が近いと周波数レスポンスに悪影響を及ぼし、ミキシング・ポジションで聞こえるサウンドの周波数レスポンスに悪影響を与えます。これは全てのスピーカーが、ミキシング・ポジション方向だけでなく全方向へ低周波のサウンドを発するためです。大きな平面(壁や天井)がスピーカーから30cm以内にある場合、その平面が「サウンドの反響板」となりスピーカーのリア・パネルから出る低周波のサウンドを反射します。これにより低音が重く増幅されて聞こえます。

3. サブウーファーを使用する:

CXモニターでサブウーファーを使用する場合、CXモニター側で低周波のサウンドをカットして、サブウーファーだけが低周波のサウンドを再生するよう設定する必要があります(この場合、CXモニターは高周波のサウンドと中域のサウンドのみを出力します)。これにより、サブウーファーとCXモニターが低周波のサウンドを両方で同時に再生することで、スタジオで低音ばかりが強調されないようにできます。

CXシリーズのモニターでは上記の3つの問題点に対処するため、以下のスイッチを使用します。

Acoustic Space(アコースティック・スペース)スイッチ ⑦

前述の通り、CXモニターは一番近くにある壁や天井、その他の大きな平面から少なくとも30cm以上離して配置するのが理想的ですが、現実的にスタジオ内の限られたスペースでは不可能な場合があります。これに対処するために、CXモニターにはアコースティック・スペース・スイッチが装備されています。このスイッチは200Hz未満の周波数を低減することにより壁の近くへの配置を可能とします。スイッチの設定方法は以下の通りです:

> ***ヒント:**スピーカーと後壁の間には少なくとも7.5cmの距離を置き、リア・パネルのファイリング・ポートに空気が適切に流れるようにします。スピーカーをそれ以上壁へ近付けると低周波レスポンスに悪影響を及ぼすことがあります。*

0dB これはデフォルトの設定で、モニターが一番近い壁から最低30cm以上離れている場合に使用します。

-2dB この設定は、200Hz未満の周波数を2dB低減します。スピーカーを一番近くの壁から30cm未満の距離に置く場合に使用します。

-4dB この設定は、200Hz未満の周波数を4dB低減します。スピーカーを一番近くの部屋の角(例えば2つの壁に挟まれた角)から30cm未満の距離に置く場合に使用します。

HF Trim（HFトリム）スイッチ ⑧

このスイッチは、CXモニターで3kHz以上の高周波のレスポンスをブーストまたはアテニュエート（減衰）することができます。このスイッチの3つの設定から選択します。

0dB　　これはデフォルトの設定で、高周波のシグナルに影響はありません（高周波はブーストも減衰もされません）。

+2dB　　この設定では、3kHz以上のシグナルを2dBブーストします。

-2dB　　この設定では、3kHz以上のシグナルを2dB減衰します。

HFトリム･スイッチを設定する場合、まず、このスイッチをデフォルトの「0dB」の位置に設定して数曲をミキシングしてみます。ミックスのサウンドがスタジオでもその他のスピーカー（カー･ステレオやマルチメディアのコンピュータのスピーカー等）でも丁度良く聞こえる場合は、デフォルトの設定のままにしておきます。

スタジオでは適切なサウンドに聴こえるのに、その他の再生システムで高周波のサウンドが鈍く聞こえたりノイズ感がある場合、このスイッチを「-2dB」に設定します。また、スタジオでは適切なサウンドでありながら、他の再生システムでは過度にクリスピーで細く、高周波のコンテンツが多過ぎると感じる場合、このスイッチは「+2dB」に設定します。「+2dB」または「-2dB」に設定するとCXモニターは明る過ぎる（壁やその他の平面から高周波の反響が多過ぎる場合）または鈍過ぎる（室内に高周波の反射が十分でない場合）ミキシング環境を補足することができます。

MF Boost（MFブースト）スイッチ ⑨

このスイッチでは中域のブースト回路の有効/無効を切り替えます。以下、2種類の設定ができます：

Out　　これはデフォルトの設定で、入力シグナルが中域のブースト回路をバイパスします（シグナルの中域に影響しません）。

In　　この設定は中域のブースト回路を有効にし、2dB at 2kHz with 1kHz Bandwidth の特性が得られます（1.5kHZから2.5kHzの間のシグナルがブースとされます）。

MFブースト･スイッチを設定するには、まずスイッチを「out」に設定して幾つかのソングをミックスします。スタジオでのミックスが適切に聴こえるけれども、その他のスピーカーで中域（ボーカルやギターの音が大き過ぎる等）が特に目立つようであれば、スイッチを「In」に設定します。これにより、CSモニターの中域はスタジオで僅かに目立つようになりますが、ミックスの中域を強調する必要はなくなります。）

LFカットオフ・スイッチ ⑩

このスイッチは、CXモニターから低周波のサウンドを取り除くハイパス・フィルタを有効にします。スイッチは以下の通りに設定することができます:

Flat この設定では、CXモニターにより全周波数のスペクトルが再生され、低周波はフィルタされません。

80Hz この設定は、80Hz未満の周波数をロール・オフする二次フィルタ(1オクターブにつき12dB)を有効にします。

100Hz この設定は、120Hz未満の周波数をロール・オフする二次フィルタ(1オクターブにつき12dB)を有効にします。

ヒント:多くのサブウーファーではローパス・フィルタのカットオフ周波数が80Hzに設定されています。お使いのサブウーファーの設定値が確認できない場合は、まずこの設定値から試してみます。再生されるサウンドでベース音が重過ぎるように聴こえる場合は、このスイッチを100Hzに設定して低周波の低音を拡張するとよりフラットに聞こえるかどうか確認します。

クロスオーバーを装備していないサブウーファーとCXモニターを併用するには、ご使用になっているサブウーファーのローパス・カットオフ周波数に最も近い値に設定します。サブウーファーのローパス・カットオフ周波数値については、サブウーファーの取扱説明書を参照して下さい。

ヒント:このスイッチを有効にして小型ウーファーを装備するスピーカー(ほとんどのテレビに内蔵)ではどのように聞こえるかを確認することもできます。

クロスオーバーが内蔵されたサブウーファーの場合、CXモニターのローパス・フィルタ・カットオフ・スイッチは「Flat」に設定します。

8. 付録A ー 技術仕様

CX5

周波数特性:	50Hz-30kHz (+/-3dB); -10dB at 50Hz
クロスオーバー周波数:	2.6kHz
LFアンプ電力:	50W（14ゲージ配線トランスデューサー）
HFアンプ電力:	40W（14ゲージ配線トランスデューサー）
LFカットオフ	Flat、80Hz、100Hz
MFブースト	2dB入/切（2kHz）
HFトリム	+2dB、0dB、-2dB（3kHz）
アコースティック・スペース	0dB、-2dB、-4dB
最大S/N比(ダイナミックレンジ):	＞97 dB (定格A特性)
極性:	+入力時、正の信号で、LFドライバを外側へ駆動
入力インピーダンス:	20k Ω（バランス） 10k Ω（アンバランス）
入力感度:	100 mVピンクノイズ入力で92dBA出力SPL（1メートル; ボリュームコントロール最大）
電源条件	100V ~50/60Hzまたは230V ~50/60Hzにファクトリーで設定済み
保護:	RF干渉、出力電流制限、加熱保護、電源オン/オフ過渡保護、サブソニック・フィルタ、外部メイン・ヒューーズ
キャビネット:	フロントとリアのバッフル、1" MDFに¾" MDFラップ装備。エンクロージャーは黒のラッカー仕上げ、フロントのカーブ部分にはソフトなブラック使用
サイズ:	13" (H) x 7.5" (W) x 9" (D); 33cm x 19cm x 23cm
ウエイト:	16.75 lbs./unit; 7.60 kg

** 上記の技術仕様は予告無く変更になることがあります。*

9. 製品保証

ハードウェアについての一年間の限定的保証

この期間限定保証は、エムオーディオ、エムオーディオ正規ディーラー及び製品取り扱い店からエムオーディオ製品を最初にご購入頂いたお客様のみが対象となります。正規ディーラー及び製品取り扱い店の一覧はhttp://www.m-audio.jp/index.php?do=store.locatorをご覧下さい。

エムオーディオは、お客様から保証の履行請求が適切になされた場合、エムオーディオの選択により、製品を無償で修理するか、交換します。修理及び交換が不可能な場合には、購入代金をお客様にお返しします。お客様はこれ以外のサービスを要求できず、また、エムオーディオの負う責任はこれがすべてです。この保証は、本製品の最初の購入者にだけ適用されるものであり、他の者にその権利を譲渡することはできません。保証に基づくサービスを受ける場合には、エムオーディオ（日本国内窓口:デジデザイン/エムオーディオ・カスタマー・サービス Tel.03-3505-4034）に連絡して、返品承認番号（RAナンバー）をもらって下さい。返品承認番号取得後、不良のある製品を送料及び保険料を元払いの上、エムオーディオ（日本国内事業部:〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館ビル4F アビッド　テクノロジー株式会社内 デジデザイン/エムオーディオ）に送って下さい。お送り頂く箱の外側に大きな文字で返品承認番号を記載して下さい。箱の中には、お客様のお名前、住所、電話番号、お買い上げ頂いた時の領収書の写し及び不良の内容を詳しく記載した書面を同封して下さい。エムオーディオは、送付途中に製品に生じた損傷について責任を負いません。この保証は製品に付されている製品製造番号が取り除かれていた場合、又は誤使用、変更もしくは公認されていない修理業者による修理により製品が損傷している場合には、無効となります。

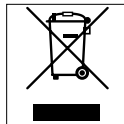
本保証は、すべての保証（口頭によるもの、書面によるもの、明示のもの、黙示のもの、あるいは法律上の規定によるかを問いません）に代わるものであり、エムオーディオは、明示的にも、黙示的にも本保証以外の保証（商品性、特定目的への適合性及び非侵害性に関する黙示の保証を含みます）を一切いたしません。本保証に基づくお客様の権利は、本書に記載された内容にしたがって修理又は交換をうけることに限定されます。いかなる場合においても、エムオーディオは、製品の欠陥から生じた直接、間接、特別、結果的又は付随的損害（逸失利益、財産侵害、人身傷害を含みます）について、責任を負いません。このことはエムオーディオがそのような損害の発生の可能性を知っていた場合でも同様です。

本契約は日本法に準拠します。本契約に関する紛争については東京地方裁判所を合意管轄裁判所とします。本契約は当事者間のすべての合意を構成するものであり、本契約に規定するエムオーディオ・ソフトウェアに関する従前の一切の書面また口頭による契約または表明事項にとって代わるものであります。本契約の修正は、正当な権限を有する者が署名した書面によるものでなければ有効とはなりません。

重要なお知らせ:保証オプションは国により異なります。より詳細な情報に関しては、www.m-audio.jp/supportをご覧頂くか、エムオーディオ（日本国内窓口:デジデザイン/エムオーディオ・カスタマー・サービス Tel.03-3505-4034）にご連絡下さい。

ユーザー登録

ユーザー登録を行うことで、新規エムオーディオ製品の正規登録ユーザーとして、ご購入日から一定期間、無償テクニカル·サポートを受けることができます。エムオーディオへお問い合わせ頂く場合には、エムオーディオでのユーザー登録を完了しなければ期間限定保証及びカスタマーサービスを受けることができません。ユーザー登録を行うには、次の2つの方法があります。環境に合わせた方法でユーザー登録を行って下さい。**1.)コンピュータで(一般的なWebブラウザ)エムオーディオWebサイトへアクセスできる方:**エムオーディオ オンラインユーザー登録ページhttp://www.m-audio.jp/register/にて、必要事項を入力して送信して下さい。**2.)携帯電話でエムオーディオWebサイトへアクセスできる方:**エムオーディオ モバイルサイトのオンラインユーザー登録ページhttp://web.m-audio.jp/mobile/にて、必要事項を入力して送信して下さい。(注意:ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。)

警告:*本製品の基盤回路には鉛を含む化学物質が含まれます。癌や出生異常、その他生殖への危害の原因となる物質として米国カリフォルニア州で知られています。***万が一基盤回路を触った場合には手を洗って下さい。**

M-Audio USA
5795 Martin Rd., Irwindale, CA 91706

Technical Support
web . . . . www.m-audio.com/tech
tel (pro products) . . . . . (626) 633-9055
tel (consumer products) . . (626) 633-9066
fax (shipping) . . . . (626) 633-9032

Sales
e-mail . . . . sales@m-audio.com
tel. . . . . 1(866) 657-6434
fax . . . . (626) 633-9070

Web . . . . www.m-audio.com

M-Audio U.K.
Avid Technology | M-Audio
Pinewood Studios, Pinewood Road
Iver Heath, Bucks, SL0 0NH, United Kingdom

Technical Support
e-mail . . . . .support@maudio.co.uk
tel. . . . . +44 (0)1753 658630
(Mac / PC support)

Sales
tel. . . . .+44 (0) 1753 659590

Web . . . . www.maudio.co.uk

Benelux

Technical Support
Belgium tel. . . . . +32 22 54 88 93
Holland tel . . . . +31 35 625 0097

M-Audio France
Avid Technology | M-Audio
Pinewood Studios, Pinewood Road
Iver Heath, Bucks, SL0 0NH, United Kingdom

Renseignements Commerciaux
tel. 0 810 001 105
email . . . . info@m-audio.fr

Assistance Technique
PC 0 820 000 731
Mac 0 820 391 191
e-mail (PC) . . . . support@m-audio.fr
email (Mac) . . . . mac@m-audio.fr
fax . . . .+33 (0)1 72 72 90 52

Web . . . . www.m-audio.com

M-Audio Germany
Kuhallmand 34, D-74613 Ohringen, Germany

Technical Support
email . . . . .support@m-audio.de
tel. . . . .+49 (0)7941 - 9870030
tel. . . . . +49 (0)7941 - 98 70070

Sales
e-mail . . . . info@m-audio.de
tel. . . . .+49 (0)7941 98 7000
fax . . . . +49 (0)7941 98 70070

Web . . . . www.m-audio.de

M-Audio Canada
1400 St-Jean Baptiste Ave. #150,
Quebec City, Quebec G2E 5B7, Canada

Technical Support
e-mail . . . . . . techcanada@m-audio.com
tel. . . . .(418) 872-0444
fax . . . .(418) 872-0034

Sales
e-mail . . . . . . infocanada@m-audio.com
tel. . . . . (866) 872-0444
fax . . . .(418) 872-0034

Web . . . . .www.m-audio.ca

M-Audio Japan
エムオーディオ／アビッドテクノロジー株式会社
〒107-0052　東京都港区赤坂 2-11-7 ATT新館ビル4F
Avid Technology K.K. | M-Audio
4F ATT Bldg. 2-11-7 Akasaka,
Minato-ku Tokyo 107-0052 Japan

カスタマーサポート（Technical Support）
e-mail :
win-support@m-audio.jp
e-mail (Macintosh 環境専用) :
mac-support@m-audio.jp
tel :
052-218-0859
（10:00~12:00/13:00~17:00）

セールスに関するお問い合わせ（Sales）
e-mail . . . . info@m-audio.jp
tel 052-218-3375
fax 052-218-0875
Web . . . . www.m-audio.jp

081022_CX5_UG_JP01